

Covilhã

について



コヴィリャン

川と山に挟まれた町、コヴィリャン (Covilhã) はセーラ・ダ・エストレラ (Serra da Estrela) (エストレラ山脈) への入り口の1つになっています。

もともとこの地にはルジタニア人の羊飼いが住んでいました。コヴィリャンはサンショ1世 (D. Sancho I) によってムーア人から奪還され、町の防衛のために壘壁が造られました。中世時代には戦略上の重要地点となり、とりわけディニス王 (D. Dinis) の治世下では領土の防御が強化されました。

ドン・マヌエルはコヴィリャンに勅許の地位を与え、さらに1510年に新しい勅許状を授けました。コヴィリャンはまた、大航海にゆかりの地でもあり、エンリケ航海王子は1415年にセウタを奪取した後、父であるジョアン1世 (D. João I) からコヴィリャン侯の称号を与えられました。

コヴィリャンはまた、ジョアン2世 (D. João II) によって東洋へ派遣された探険家ペロ・ダ・コヴィーリャ (Pêro da Covilhã) の生誕地です。彼の情報はヴァスコ・ダ・ガマ (Vasco da Gama) がインド航路を発見するのに役立ちました。

コヴィリャンで有名なものの1つとして毛織物が挙げられます。これはサンショ1世 (D. Sancho I) の時代に始まり、当時、この町に住み、15世紀までここにとどまっていたユダヤ人のコミュニティによって発展しました。ジョアン5世 (D. João V) 治世下でポルトガル軍の軍服をすべて生産していた繊維産業は、ポンバル侯爵 (Marquês de Pombal) がここに王立繊維工場 (Real Fábrica de Panos) を設立すると飛躍的に発展し、手織物生産における全国最大の中心地となりました。それに伴う経済発展により、コヴィリャンは1870年に市の地位に昇格しました。

コヴィリャンの歴史的遺産を見学する際には、ユダヤ人地区の狭い通りやマヌエル様式の窓、サン・マルティーニョ礼拝堂 (Capela de São Martinho)、サンタ・クルス礼拝堂 (Capela de Santa Cruz)、毛織物博物館 (Museu dos Lanifícios) を見逃さないようにしてください。

コヴィリャンとその周辺地域では、この地域の自然と文化の遺産に触れることができる旅行プランを立て、カステロの地や歴史的な村、手織物のルート、旧ユダヤ人地区のルート、セーラ・ダ・エストレラ自然公園 (Parque Natural da Serra da Estrela) をご覧ください。コヴィリャン・カウンシルのWebサイトもご覧ください。